

13. トマト褐色輪紋病の発病しやすい温度及び保湿条件（情報）

[要約]

トマト褐色輪紋病の発病は 20～30℃が適しており、1 日の保湿時間が長いほど多発しやすい。

研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543
------	-------	-----	--------------

[背景・ねらい]

トマト褐色輪紋病の発病における温度・保湿時間の関係および湿室と風乾の繰り返しが発病や分生子の生存に与える影響を調査し、防除上の資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. トマト苗（本葉 5 葉期）に、本病菌の孢子懸濁液を噴霧接種し、15～30℃で 6～72 時間湿室に保つと、保湿時間が 12 時間以下ではいずれの温度条件においても発病しなかった（図 1）。保湿時間が 48 時間以上になると、20～30℃では病斑数が顕著に増加し、25℃で特に多かった。15℃では発病が少なかった。
2. 30℃12 時間の保湿では病斑は形成されなかった（図 1）が、4 時間保湿の 4 回繰り返し、8 時間保湿の 3 回繰り返し、12 時間保湿の 2 回繰り返し後に乾燥すると、いずれの区も病斑がわずかに形成された（表 1）。しかし、処理後 48 時間保湿すると、株当たり病斑数が増加し、連続保湿が長いほど病斑数が多かった。

以上の結果、トマト褐色輪紋病の発病には 20～30℃が適しており、保湿時間が長いほど発病しやすい。

[成果の活用面・留意点]

1. トマト褐色輪紋病は夏期高温、多湿条件が続くと多発しやすいので、換気に努めるとともに薬剤防除を徹底する。

[具体的データ]

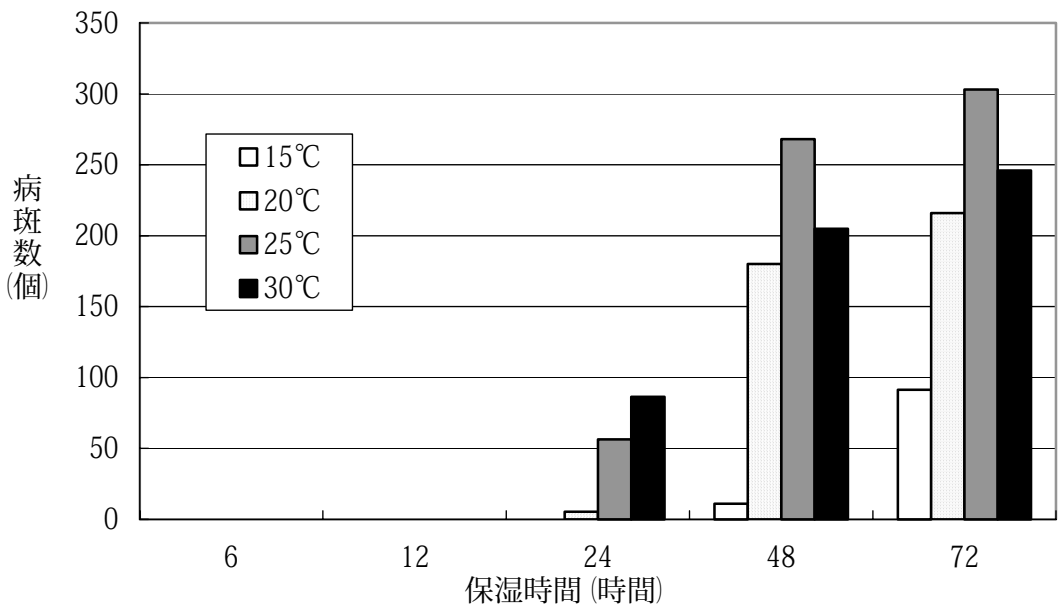


図1 トマト褐色輪紋病菌接種後の温度および保湿時間と発病の関係

表 1 葉面の結露および乾燥の繰り返しと発病（30℃人工気象室内）

処理方法			処理後 直ちに乾燥	処理後 48 時間保湿条件
保湿時間 (hr)	乾燥時間 (hr)	繰り返 し回数	株当たり病斑数	株当たり病斑数
12	12	2	7.8	75.5
8	16	3	8.0	29.8
4	20	4	5.8	14.5

[その他]

試験研究課題・事業名：コリネスポラ菌によるトマト褐色輪紋病、キュウリ褐斑病の発生生態の解明と防除対策

予算区分：国補

研究期間：平成 13～15 年度

関連情報等：平成 12 年度主要成果：コリネスポラ菌（トマト褐色輪紋病菌、キュウリ褐斑病菌）の薬剤耐性菌に対する予防薬剤